



乳歯保存を呼びかけます

<http://pdn311.town-web.net/>

全国みなさんに乳歯保存を呼びかけます。

2011年3月11日の東京電力福島第一原子力発電所事故は、大量の人工放射性物質を放出し、大気・土・地下水・海など、地球規模で自然環境を汚染しました。

破損し穴とひびの入った格納容器に流れ込む大量の地下水は、溶け落ちてたまっている核燃料と接触して高濃度に汚染され、今なお海に流出し続けています。

原発事故によって放出された人工放射性物質のひとつにストロンチウム90があります。

ストロンチウム90は骨に蓄積され、何十年もの長い間、身体から出ていきません。白血病や免疫不全がん以外の病気の原因ともなります。アメリカの研究者たちは、乳歯の中のストロンチウム90の増加につれて、子どものがんや白血病が増えていることを明らかにしてきました。

ストロンチウム90は、大気圏内核実験が盛んに行われるようになった1950年代から、日本各地でどれだけ降り注いだか測定されました。同時に乳歯中のストロンチウム90も調べられ、乳児の栄養の違い〔母乳、人工、混合（母乳と人工）〕によって、乳歯のストロンチウム90の蓄積量に差があることも明らかにされました。欧米諸国でも、同様の研究結果が得られました。

受精卵からわずか十ヶ月足らずで人となる胎児や乳幼児の成長は大変早く、その分、子どもに対する人工放射性物質の影響は、おとなよりはるかに大きくなります。

事故後研究者は、動物の乳歯や骨などに蓄積する人工放射性物質について調べました。今までに行われたウシ、ブタ、野生ネズミ、サルの研究から、とくに若い動物の歯にストロンチウム90が顕著に蓄積していることが明らかにされています。その値は高濃度汚染地ほど高くなっています。同じようなことがヒトにも起こっている可能性があります。そのことを私たちはたいへん心配しています。

そのストロンチウム90の測定を、日本政府も福島県「県民健康調査」検討委員会も行っていません。測定をするよう提案や要望がありましたが、まだ実現していません。かつてない子どもの甲状腺がん多発に対しても、「放射線の影響とは考えられない」としています。原発事故が自然生活環境にまき散らした人工放射性物質を丁寧に調べ、放射線の影響がわかるようにすべきです。

じつは体内に取り込まれたストロンチウム90の測定は、抜けた乳歯でできます。

抜けた乳歯に取り込まれたストロンチウム90の物理学的半減期は約29年ですので、抜けた歯を長時間保存しておいても、ストロンチウム90は残っています。乳歯は内部被曝の貴重な証拠試料です。乳歯の測定によって、ストロンチウム90がどのくらい体内に取り込まれているかがわかります。私たち自身の測定データをもとに話し合い、子どもたちのいのちと健康を守り、病気の予防に役立てるのです。

大切なのは、予防原則です。

子どもたちをこれ以上被ばくさせないこと、環境や食生活への配慮・改善で今以上の蓄積を防ぐこと、これが一次予防です。流通する食品のストロンチウム90濃度を調べ、汚染の少ない食品を摂るよう心がけることが大切です。二次予防は、精度の高い健診システムで、病気を早く見つけ、適切な治療によって子どもたちのいのちを守ることです。

私たちは2年後をメドに日本国内で一本一本の乳歯中のストロンチウム90が測定できるよう準備中です。乳歯をぜひ保存しておいてください。

抜けた乳歯を「記録カード」と一緒に、袋やケースに入れて保存しましょう。

次の、そしてまた次の世代に役立つこの取り組みを、ぜひまわりの方たちに呼びかけてくださいますよう、お願いします。

2015年10月 「乳歯保存ネットワーク」呼びかけ人一同